

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

3/17(日) 14時00分～16時00分 参加費1,000円

(30分前より受付・開場)

〔高校生以下無料 障がい者無料/付添割引あり〕

会場：岡崎市せきれいホール

後援：岡崎市 岡崎市教育委員会

愛知県岡崎市朝日町3-36-5

〔会場近くに岡崎市役所東庁舎の駐車場が利用できますが、
できる限り公共交通機関でのお越しをお願いします。〕

申込制先着 490名

映画上映後、関係者によるアフタートーク企画あり☆

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

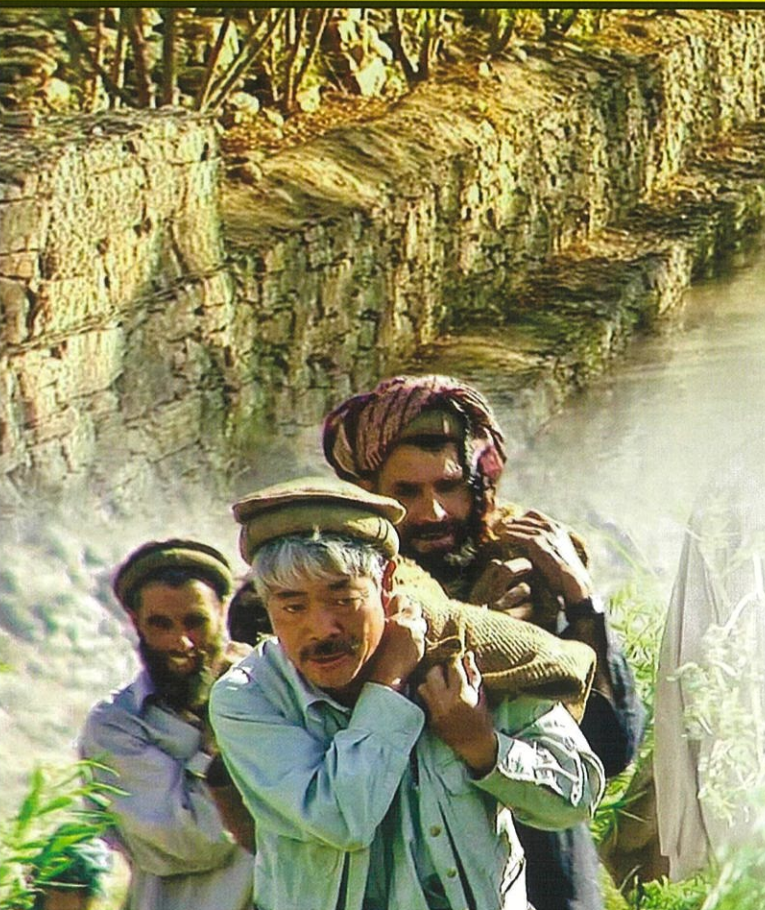
写真映像提供◎ベシワール会/PM S

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団

一般社団法人 日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分

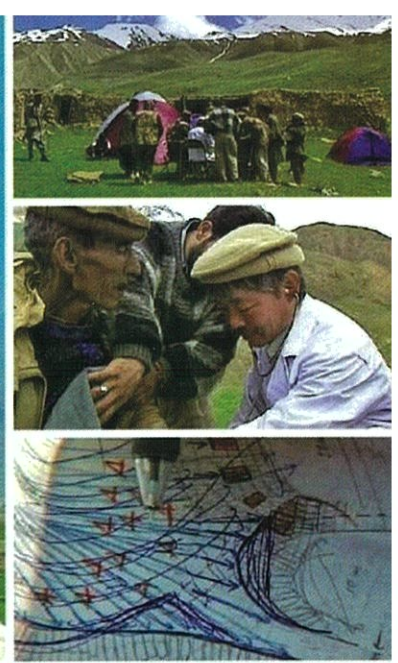
医師中村哲の 仕事・働く ということ



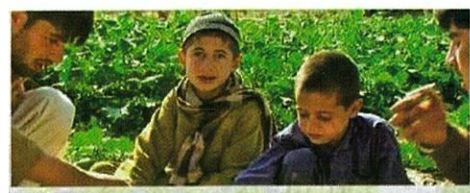


医師中村哲の
仕事・働く
ということ

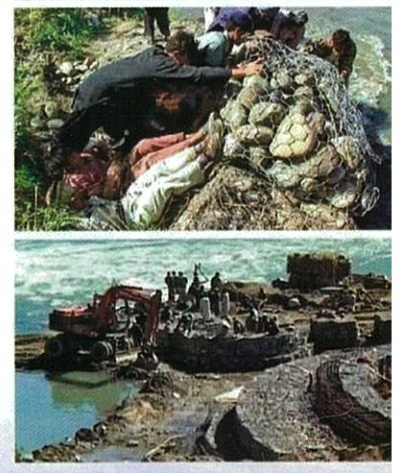
アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない「荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」
上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）はその産声を上げた時から“失業・貧乏・戦争なくせ”をスローガンとして活動してきました。その日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）が中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた日本電波ニュース社に依頼し“働くこと”と“仕事観”に焦点を当てて作られたのが本作品です。

3/17 受付/開場: 13時30分 会場: 岡崎市せきれいホール 後援: 岡崎市 岡崎市教育委員会
 (日) 開演: 14時00分 終了: 16時00分 愛知県岡崎市朝日町3-36-5
 ※会場近くに岡崎市役所東庁舎の駐車場が利用できますが、参加費: 1,000円
 できる限り公共交通機関でのお越しをお願いします。 (高校生以下無料、障がい者無料/付添割引あり) 申込制先着**490名**



登壇: 上映後アフタートーク『中村哲さんから学んだこと』
 内藤郁代氏: ワーカーズコープ組合員。岡崎市出身。みんなのおうち東京江戸川ベースnappaを設立。
 西谷修氏 (左写真): 哲学者、東京外国語大学名誉教授。豊橋市出身。フランス思想・比較文明学の研究者として『戦争論』などの著作がある。(NHK『100分de名著』出演など)

*****【申込方法】下記にご記入しFAX(0533-56-3378)もしくはQRコード読み取りでお申込みください*****
 FAXを送信して頂いた時点で申込完了です。紙のチケット等送付しません。当日受付にて参加費をお支払いください。

お名前 (代表者名)	年代	代	住所
電話番号	mail		@
参加者 (複数で参加の場合)			



主催・問い合わせ: 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 <https://forms.gle/hpWVioxil4tAQoolA>
 愛知三河事業所 (☎0533-84-5678) (電話受付時間 9:30~12:00 (水・日・祝日除く))
 *FAXもしくはQRコードでの申し込みが出来ない方は上記☎担当窓口での申し込みをお願いいたします。